



からしだね

2017年6月号
(528号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/index.htm>



ドレミの会 山口大輔 「花」 総務大臣賞



ドレミの会 濱崎良行 「仲良し」 特別優秀賞

本号の記事の主題など

畠基幸神父の巻頭言“聖霊降臨祭に際して”

..... 2

私が洗礼に至る道..... 4

洗礼を受けて..... 4

うれしい初聖体 5

初聖体クラスを受け持って 5

保護者を代表して 6

年次信徒総会は 6/11 です 6

「福音書を学ぶ会」始まる 7

ダニエル神父様の帰天に寄せて 7

お知らせ、お願い、お礼 7~10

大腸ガンの手術を受けて(上) 9

巻頭言

聖霊降臨祭に際して「右近の靈性を学ぶ年」に思うこと。

たてまつ

「わが魂は、天地万物の創造者なる御主をひたすら慕い 奉る」(マニラにて、高山右近)

畠 基幸 神父

大阪大司教区のトマス・アクィナス前田万葉大司教様は、高山右近の列福の栄えある本年を「再新生計画」2年目、「右近の靈性を学ぶ年」と位置づけておられます。同時に、来年の大阪教区宣教150周年を記念して新しい福音宣教の段階「再新生計画」に入る体制を整えるために、靈的な準備という趣旨でそのための小冊子が配布されました。各小教区においてこの小冊子『「右近のいつくしみに倣う」ための手引き』を具体的に実践するようにとのことです。そして、これをどのように使うかは司牧者に委ねられています。

この「右近のいつくしみに倣うための手引き」小冊子は、右近の靈性を四つの側面からまとめられた大司教様のポイント、すなわち(1)祈りの人、(2)いつくしみの人、(3)寄り添いの人、(4)宣教の人の各項目に、再宣教150周年企画委員会が、①高山右近の歴史的な模範と②大阪教区の新生計画の教会像と③現代社会の中での現在教会が取り組む課題の三つの要素を組み込んで編集されたものです。これまでの新生計画の土台を基に、わたしたちの将来に向けての教会生活に生かす生き方の振り返りと指針となるような構想と展望があると思います。

ところで、「新しい福音宣教」は、洗礼を増やすことよりも、教会内で成長した信者の子供たちへの信仰の伝達が困難になったキリスト教国での問題意識から始まっています。親世代ですら教会のミサへの出席は減少し、そこで育つ子供たちは非常にテンポの速い現代社会の情報氾濫の中で現代的価値観に晒され、教会が持つ価値観を評価しなくなりました。この信仰の危機の源流には、500年前のルターの教会改革の時代から始まる近代史を鳥瞰する必要がありますが、私自身、問題の風呂敷を広げすぎて收拾がつかなくなりました。しかし、幾分ヒントのようなものが、教導権つまり教皇様たちの回勅や使徒的勧告の文言から光をいただくことができました。

わたしが4月号の「からしだね」の巻頭言で取り

上げた教皇回勅「ラウダート・シー」に頻繁に出てくる言葉「ポストモダンとパラダイムとライフスタイル」の説明で、高山右近(1552年～1615年)の同時代人フランシス・ベーコン(1561年～1626年)について「進歩への信仰」がキリスト信仰に変わる救いのパラダイムになった時代の始まりであることを指摘しました。これはベネディクト名誉教皇16世の論述(回勅「希望による救い」17項)から受けた説明です。「信仰の危機は、何よりもキリスト教的な希望の危機にほかなりません。こうしてベーコンにおいて、希望も新しい形をとりました。いまや希望は『進歩への信仰』と呼ばれます。実際、ベーコンにとって、最近の発見や発明が始まりにすぎないことは明らかでした。科学と実践の協力によって、まったく新しい発見が生まれ、まったく新しい世界が生じます。すなわち、人間の支配する国です(同回勅17項)」。

そして、ベネディクト16世名誉教皇からフランシスコ教皇へと問題はバトンタッチされます。「人間の支配する国」に対して抽象的な神学や哲学の言葉で批判するのではなく、「皆がともに暮らす家に何が起きているのか」を概観しながらわたしたちのライフスタイル、神を見失った世界観の中で苦しむ現代人に創造の神との対話を呼びかけているのが、フランシスコ教皇の回勅「ラウダート・シー」です。

回勅「ラウダート・シー」は、すべての人との対話を目指したのですが、第二章において「創造の福音」にページを割き、キリスト者や他の信仰者たちに自然やもともと弱い立場の人たちを大切に十分な動機を信仰の確信から汲み取り、自らの信仰の本質的な部分として理解するように促しておられます。「神が全能であり創造主であることを忘れる靈性は受け入れることができません。そうすると結局わたしたちは地上の諸力を礼拝し、あるいは神の地位を力づくで奪い、果ては、神の創造のみわざを踏みにじる無制限の権利を主張するようになるのです。大地に対する絶対的支配の主張に終止符をうち、人間をしかるべき場所に連れ戻す最善の道は、世界を創造し、その唯一の所有者

である御父の姿について今一度語り直すことです(同回勅74項、75項)」。そして、その御父の姿は、同じ年に発布された「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」(いつくしみの特別聖年大勅書)においてキリスト者の信仰の確信としてフランシスコ教皇自身が語りなおされたのです。「被造物は、愛の秩序に与り、神の愛がすべてものを動かす原動力です(参照 知恵11:24)。あらゆる被造物は、世界における自分の場所を授けてくださる父の優しさの対象です。もっとも小さなものの束の間の命さえ神の愛の対象です」(同回勅77項)。つまり、神の本性は、「あわれみでありいつくしみ」なのです。

しかしながら、このような聖書の信仰、「創造主」という考えは、「固く拒絶されたり、無意味なものとみなしたり」されることを「重々承知している」と教皇様は第二章の創造の福音の冒頭で言及されますが、それ故にこそ、「科学と宗教は独自のアプローチで双方に実りをもたらす密度の濃い対話ができる」と断言されて論述されます。科学と宗教、これは二つの世界観でありながら、根底には、「現代人の心にもっとも奥深く根を下ろしている世界観—事実に存在がそのまま端的な存在(ある)であるという主張(稲垣良典「存在の形而上学」III 現代存在論の根本的前提 pp. 20~27)を当然の真理のように共有することが前提になる。しかも、これが、近代に始まる科学教育の到達した世界観であり、現代の世俗化と相対主義的価値の意識の根にあるものです。信仰者にとってもなかなかこの垣根は越えられない。

先に引用した稲垣良典先生の本の表紙ラベルには、「現代存在論の重大な欠陥を暴き」とあり、そのタイトルどおりの本であることに感動しました。先生によれば、現代の存在論は、宇宙ないし自然的世界を完結したシステムと見做す自然主義的世界観であり、神的創造を否定する世界観であり、この世界観の根本的特徴は、わたしたちの知的な射程から「存在の神秘」を排除したもので、極めて不徹底な段階の知的探求を反映する世界観になると批判されます。そのためには、「存在の神秘」(ガブリエル・マルセル、1889~1973)の言葉を提唱したマルセルのアプローチが適切であると紹介されます。マルセルは、「問題」を探求する科学と「神秘」を探求する宗教という

二つの認識の極を提唱した。「問題」が対象として処理し定義するものに対して、「神秘」は処理や定義や技術的手段を超越して、わたしに現存し、この現存によって何らかの仕方での現存に参与し、新たにされ、完成されると述べたのです。「問題」と「神秘」の両極に科学と宗教が行き来し完全に両極に分かれるものではないと先生は説明されています(稲垣、前掲書 p. 24)。

このように概観してみると、新しい福音宣教は、「存在の神秘」への探求ということになるように思います。確かに、現代社会は問題解決型の有能な人間を求めているでしょう。ですが、それは心や精神の存在を自らのうちに確認するアプローチ、聖霊に導かれることでなければならないでしょう。小冊子は、③現代の教会が取り組む課題として、(1)小教区評議会での祈りの必要性、(2)グローバル化した現代社会が生み出す弱者の現実を知る必要性、(3)交わりの教会における他者とかかわる学習の必要性、そして(4)今日のネットワークでつながる現代日本の社会へのアプローチなどが取り上げられています。

しかし、この小冊子の右近の霊性で忘れられていることは、この地上のいのちだけで終わらない命への希求です。「現今の世界の構造は、多様な観点から持続不可能です。なぜならわたしたちは人間活動の目的について考えることをやめてしまったからです」(回勅「ラウダート・シー」p.56)。その目的とは、回勅の第二章創造の福音・VIIイエスのまなざしにおいて語られるキリストの神秘です。そのキリストの神秘とは、罪に対する創造主のかぎりないいつくしみの啓示です。新約聖書は、いつくしみ深い御父を語る地上のイエスだけでなく、御子のあがないの死を通して成し遂げられた新しい創造を示します。復活の光の下に書かれたからです。それ故、あらゆる地上のできごと、和解の恵みをもたらされたいつくしみの神への賛美と感謝をささげることが信仰者の日々の務めとすることではないのか。つまり、復活された方が、被造物を、そして我ら信者を和解の奉仕者として、神秘的な仕方でご自分の方へ抱き寄せ、最終目的である充満を目指させてくださるからです(同回勅p. 91)。

聖霊降臨に際して、皆様一人ひとりに新たな神秘の賜物が注がれますように祈ります。

私が洗礼に至る道

先日の復活徹夜祭にて、洗礼に授かりました。家族3人で室町に住んでいます。出身は徳島県です。主人の転勤で7年前に大阪市へ引っ越し、池田市に在住して5年になります。この春に一人息子が聖マリア幼稚園を卒園し、小学校へ入学しました。息子と同じく私も新しい気持ちで春を迎える事が出来ました。

昨年春にはまさか私が洗礼を受けるとは1ミリも思っていませんでした。毎日、幼稚園に息子を送り迎えしていましたが、すぐ隣にある教会はとても敷居が高いようにすら感じていました。そんな私がどうして洗礼を、と皆さんお思いになられるかもしれません。(少し長くなり、つたない文章ですがお読みいただければ幸いです。)

始まりは2016年7月12日のことです。いつものように夕方、仕事を終えて息子を迎えに幼稚園へ行きました。預かり保育の先生から「今朝、松本園長先生がお亡くなりになられました」とお聞きしました。あの時の衝撃は、まるでバットで頭を殴られたようでした。

松本神父さまを初めてお見かけしたのは2015年の秋、保護者会が開かれた教会の聖堂でした。当時、幼稚園は大きく揺れ動き、先生方の退職が相次いで明日の保育もままならない状態になっていました。私は当時、フルタイムで仕事をしており、保育の現場がこんなに揺れ動いていたことはほとんど寝耳に水でした。保護者はもちろん、子供たちも不安を感じずにはいられない日々だったと思います。そんな大変な状況の中で、保護者に対して行われた聖堂での説明会では、理事長をされていた松本神父さまが新たに園長先生として幼稚園を立て直してゆかれる事をゆっくりと安心させるように私たち保護者にお話してくださいました。松本神父さまが来てくださったことでとても安心したことを今も覚えています。

秋から冬となり、寒い朝もいつも、幼稚園の門に松本神父さまが立って子供たちを迎えてくれています。新年度が始まり1カ月ほどすると、松本神父さまのお姿が見えない日が多くなりました。私は正直、残念に思っていました。「幼稚園での指導より修道会のお仕事がお忙しくなり優先されているのかな、幼稚園が嫌になり来なくなったのかな」疑心暗鬼にそんな風に思っていました。まさか大病を患っておられたとは思いませんでした。

た。1か月、2か月が過ぎても松本神父さまは帰って来られませんでした。また幼稚園が揺れ動くのはと不安がよぎりました。そして、7月12日がやってきました。

7月14日の告別式のミサの前に、園児のために聖堂で「お別れの式」を行ってくださいました。開式の際、柩を開けて下さり、安らかに眠る松本神父さまのお顔を見たとき、私も含め皆が悲しみでいっぱいになりました。松本神父さまのお姉さまや、山内神父様のお話をお聞きしたとき、やっと私は松本神父さまが病床からいつも幼稚園のことを気に留めてくださっていたことを知ったのです。私は松本神父さまを疑ったことを強く強く悔みました。それから夜も寝られず、池田教会のHPから「からしだね」の松本神父さまの寄稿を読んで涙しました。教会の事、神様の事をもっと知りたい、と思うようになったのはこの時だと思います。今までとても敷居が高く感じていた教会へ飛び込んでみようと思いました。そして運よく、アルファ・コース9期の第1回目(7月16日)に参加することができました。飛び入りの私を温かく迎えてくださった松下さんご夫婦、アルファ・コースの皆さんに心より感謝いたします。天国よりお力添えくださった松本神父さまにいつも感謝の心でお祈りを捧げたいと思います。また、洗礼にあたり、畠神父さまをはじめ、皆さんにたくさんのお祝いの言葉や信仰の助けをいただきまして本当にありがとうございます。これから永く続く信仰の道、共に歩ませていただけることを感謝し、受け入れてくださった池田教会に少しでも何かお返しできればと思っています。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます

富樫

洗礼を受けて

4月15日の復活徹夜祭において洗礼を受け、信徒となることができました。

キリスト教に興味はあったものの、信仰を持っていなかった私が教会の門を叩いた理由は複合的なものですが、一言で言えば、「望む善は行わず、望まない悪を行っている」ことで苦しんでいた自分の身を守る必要があった、ということです。

その後、アルファ・コースに参加し、後に代父になっていただいた松下さんや他の参加者の皆さんと交流していくうちにキリスト教的なものの見方に少しずつ馴染んでいき、今まで与えられているのに気がつかなかった日々の恵みに目を向け、素直にそれ

を喜べる生き方ができるようになってきました。

ところが、洗礼に備えるはずの四旬節では思うように節制することができず、過去の過ちを悔い改めようとすれば犯した罪の大きさに押しつぶされそうになり、「こんな罪深い私が救われるはずがない」という思いにまで囚われるようになりました。しかし、煩悶するなかでやがて「このように罪深い私だからこそ、私を救ってくれるのは神様しかいない」との思いに至

り、ようやく神様の愛に心を開くことができました。

誘惑に屈して一時の欲を満たしてもそれは空しいもので、それよりも良心に従って生きることが深い安らぎや満足を与えてくれます。神様の愛を信頼し、キリスト者にふさわしい道を歩んでいきたいと思ひます。

寺阪

うれしい初聖体

復活の主日に5人が初聖体を受けました。5人は昨年4月から『うれしいはつせいたい』というテキストを使って勉強してきました。素直な心とまっすぐな目で勉強に取り組む姿が印象的でした。侍者への意欲も十分で、これからの活躍が楽しみです。そんな5人に、ご聖体を頂いた感想を聴いてみました。

- (1) ご聖体を頂いたときの感想
- (2) 初聖体の勉強で印象に残っていること
- (3) 何か一言

そういちろう:

(1) 味がしなかった。ドキドキしていたが食べた時になんとか落ち着いた

(2) 最後の初聖体の練習。いよいよだなと思っ
てもものすごく楽しになったから

(3) 当日、たくさんの人にお祝いしてもらい、初
聖体ってものすごいことなんだなと思い嬉しかった

しゅう:

(1) うれしかった

(2) みんなと祈ることができたこと

(3) 侍者でもがんばります

はるみち:

(1) ずっと勉強していて、やっといただけたからう
れしかったです

(2) ご聖体のいただき方と、神さまを色で表すと
ころです

(3) お祈りを毎日忘れないようにしたいです

たくま:

(1) 思ったよりおいしかった！・嬉しかった

(2) クリスマス会の発表に向けて、聖書の中から、好きなお話を探したこと

(3) 他には無い！(お父さんによると、初聖体を
頂く復活祭当日の朝から元気いっぱい、頂いた後
も笑顔が溢れていたそうです)

はると:

(1) 嬉しかったし、特別なものをいただいたという
気持ちがありました

(2) 最後のお食事の絵を見て、とても悲しい時
間のように見えました。十字架にかかる前の夜で、
弟子たちと離れて神さまのところへ帰らなければなら
ないので、イエスさまはとてもさみしい気持ちだっ
たけど、わたしたちがずっといつまでも一緒にいられる
ようにご聖体を決めてくださったということを勉強した
ことが印象に残っています

初聖体クラスサブリーダー

初聖体クラスを受け持って

十何年か前にブラザー雲田より「日曜学校を
手伝いませんか」と声をかけていただき軽い気持ち
でお手伝いを始めました。こんなに長くなるとは思
いませんでしたが、一度もいやだと思ふ事もなく続け
て来られたのはこどもたちが素直に聞いてくれたから
だと思います。いつも楽しい気持ちでクラスをす
ることができました。

ただここ何年かこどもたちの人数が少なく二人、
三人という年が多かったです。欠席があると一人の
こどもに先生が二人いたりでかわいそうだなと思
いました。それが昨年は、男の子が六人！みんなあ
まりお休みすることなく時々(しばしば?)脱線しま
したがそれは楽しいにぎやかなクラスでした。先生も
各世代がいてよかったと思います。好きな聖書のこ
とばをさがす時はみんな真剣に聖書を読んでいま
した。

みことばに接する大切さを感じました。侍者をして
いる六人を見ているとこのまま大切な仲間として成
長していくよう願わざるを得ません。

初聖体クラスリーダー

保護者を代表して

保護者として、また初聖体クラスのお手伝いをさせて頂いたことを通して、感じたことをお伝えしたいと思います。

そういちろう君、しゅう君、はると君、はるみち君、たくま君。5人の元気いっぱい男子たち。日曜学校のたびに、ワイワイと大はしゃぎ。“神様ってどんな色？”“イエス様の家族を描きましょう。”“どんなときに「ごめんなさい」と言いますか？”等々。それぞれみんな、個性的な色や表現で描き、見せ合いました。

クリスマス会に向けての聖書朗読の準備でも。自慢の聖書をどーンとテーブルの上に置いて、どこを読みたい？どこが好き？と、あーだ、こーだ、と言いながら選び出す作業もやっぱり賑やか。

本番では、少し照れくさくて小さな声になってしまった子もいたかもしれませんが、仲間と一緒に勉強の成果を発表することができました。一回一回、いつも短いながらもギュッと凝縮された、元気な声と笑顔に溢れた時間。5人がお互いに刺激を受けながら、楽しく、そして優しい気持ちでイエス様のお言葉に触れることができ、嬉しい初聖体の日を迎えることができたと思います。

お二人のリーダーを始め、たくさんの日曜学校関係者の皆様、いつも子供達を温かく見守り導いて頂き、本当にありがとうございました。

神に感謝

阿部

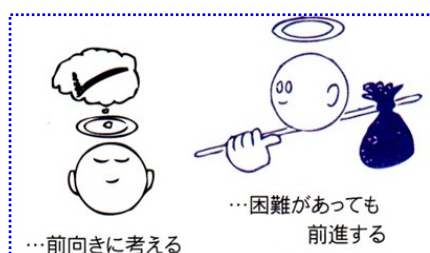
年次信徒総会は6/11です

来る6月11日の主日のミサ後、2017年の年次信徒総会が開かれます。昨年度の活動報告については、2016年度の評議会の議長団と常設委員会が作成した小冊子の報告書が事前に配られ、総会ではそれを説明するのに時間を割かず、信徒の皆さんの疑問に答える方式が採られます。

〔議長団からメッセージ〕

昨年度の委員会活動のレビューを通してこれからの池田教会のことを考える年に一度の機会です。昨年度において、表に立って、また裏方となって神様の働き手となって下さった方々に、あらためて感謝いたします。また総会に参加されるおひとりおひとりにとって、今・私に何ができるか？と振り返る機会となることをお祈りします。

私達が「どなたも手一杯の方ばかりだ」と諦めているなか、もしかすると神さまは、余るほどパンと魚を見つけて下さるかも知れません。



ダニエル神父様帰天に寄せて

青少年育成委員

今年、銀祝を迎えられたダニエル・クエンジ・カンパタ神父様は2017年4月16日(日)復活の主日の朝6:00頃、千里ニュータウン教会の自室にて神のもとへ召されました。

神父様は1958年8月2日にコンゴ民主共和国に生まれ1990年3月に来日されて以降、堺ブロック、阿倍野・平野教会、北摂地区・北摂東ブロック(千里ニュータウン、茨木、高槻)とこの地大阪教区において信徒の司牧や後進の育成指導に就かれ、この春、姫路地区・姫路東ブロックへの転勤を間近に控えておられました。

以前、池田教会の黙想会へ指導に来てくださった事もありますので、皆さんの記憶に残っているかと思います。

近年、北摂地区の青少年委員会での指導司祭を担当されていまして、3/19(日)、20(月)の青少年交流会での雑誌を切り抜いてコラージュを作成し現在の自分を表現し見つめなおす分かち合いや、昨年秋の交流会での玉造教会に設置された「いつくしみの門」巡礼など、アイデアに富みタイムリーな交流が行えたことは非常に有意義で、私は神父様の引き出しの多さに頼もしさを感じていました。

神のみもとで安らかに憩われるよう、また青少年育成活動において私たちがご心配をおかけすることが無いよう、皆さんもお祈りください。

「福音書を学ぶ会」始まる



聖書の勉強会が始まりました。指導してくださるのは中村神父様です。

5月12日に15名の方が参加されて第一回目が行われました。初日なのでプロローグとして大まかな新約聖書の世界について以下のような話をされました。

共観福音書と呼ばれる、マタイ、マルコ、ルカ福音書に描かれるイエスの姿は少しずつ違っている。

ヨハネによる福音書ではイエスはヒーローとして描かれている。

エウカリスチア(ミサ)とは神への感謝と奉献、そして賛美の歌である。また、地上の人々の間を歩くイエスの姿など、知っているようで知らない場面を詳しく教えてくださいました。

神であるイエスを語っているところが興味深い…ということで、次回からヨハネによる福音書について講義して下さることになりました。

たくさんの方々、ぜひご参加ください。

日時: 第二、第四金曜日の14:00 ~ 16:00

場所: カール記念館2階会議室

福音書を学ぶ会世話人

「ラウダート・シ」の翻訳者による研修会

北摂地区社会活動委員会主催

北摂地区社会活動委員会主催で毎年開催される全信者参加対象の研修会を今年も7月22日(土)に開催することになりました。

今年は教皇フランシスコのメッセージをより深く理解することをテーマとし「回勅 ラウダート・シ」の翻訳に携わられたイエズス会の瀬本正之神父様を講師にお招き講演をお願いしております。

会場は池田教会聖堂を予定しておりますので皆様ふるってご参加いただきたくよろしく願いいたします。

社会活動委員会

大人の日曜学校

主日の福音をゆつくり味わい一週間のスタートをきりませんか?

6月は25日、ミサ後カール記念館2階

研修委員会

マニラの学生に奨学金をお願いします！

社会活動委員

マニラで、経済的理由のために学業を続けられない学生を支援しています。

最初は、被昇天のシスターから5人の学生の支援をしたいが、3人は決まっているが、あと2人の支援が決まっていないということで、池田教会の信者さんを通じて、社会活動委員会に依頼され、私達は窓口として池田教会の皆様と呼びかけ、支援を募って、なりたっています。一口500円(毎月)です。1年間で26万円を5月と11月に送金しています。今年は5月に送金すれば、ほとんど残金がない状態です。

この活動は、被昇天では28年、池田教会が参加して25、6年になります。もうすでに何人もの学生が卒業され、巣立っていくことは喜びです。

今まで続けられたことは、皆様のおかげです。1人でも多くの子供達が巣立つことができますように！ご賛同される方を募っています。

6月はイエスのみ心の月**— 表紙絵について**

今年2月におこなわれたビッグ・アイ「アートプロジェクト」主催、障がいのある人のためのアート・コンクールで、ドレミの会の山口大輔くん(29)が総務大臣賞、濱崎良行くん(40)が特別優秀賞を受賞されました。池田教会からもお祝いの気持ちを表したく、写真で作品を紹介いたします。畠神父様が聖霊降臨祭や「イエスのみ心の月(6月)」のテーマカラー赤にちなんで、この華やかな2作品をカラーで紹介したら、と助言してくださいました。

山口くんの「花」は紙面をいっぱいに使って、鮮やかなオレンジ色の花が咲き乱れ、濃い緑の葉と茶色い枝が添えられています。村嶋さんの話では、山口くんは自分の絵にいつも母親を描き込んでいるそうです。そういえば、花はどこかお母さんの顔のようにも見えますね。濱崎くんの「仲良し」では、ピンク色のワンピースの子と黒い上着の子が、仲良く寄り添っています。遠景には家や働く人も見え、道に立つ二人の横には緑や紫、黄緑、赤など色とりどりのモザイク模様が細かく書き込まれていて美しい。どちらもほほえましい楽しい作品です。おめでとうございます！

広報委員

6月のガラスケースのことは**もし人の過ちを赦すなら、****あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。****しかし、もし人を赦さないなら、****あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。**

マタイ6・14 - 15

大腸ガンの手術を受けて(上)

大山

死ぬときは、脳卒中か心筋梗塞で、ガンだけは全く無縁だろうと、変な思い込みを持っていましたのに、76歳で大腸ガンの手術を受けました。

数カ月前から左の下腹部が痛み、掛かり付けの医師から胃潰瘍の薬を貰うこと数回。その度に治ったのですが、4月に入って治りが悪くなりました。エコー(超音波)検査の結果、肝臓に怪しげな影が映っているとか。市立池田病院に手続きをしてくれて、7日に検査入院。病院ではエコー、胃カメラ、腸内内視鏡検査、心臓のカテーテル検査、CTと、盛りだくさんな検査。口や血管、尻からカメラ付きの管を入れました。

胃や腸を空っぽにするため、下剤を2リットル飲みましたが、一向に排泄がありません。急遽、浣腸を。「腸閉塞を起こしているようで、すぐに手術をしないと危険」と診断。異例の早さで、検査の2日後に手術を受けることになりました。私自身は、自分が危険な状態だとは、全く意識しませんでした。

女医さんから、やんわりと「家族や親類の人を、出来るだけ呼んでください」と、いわれた時はやや不審な思い。「検査入院だけで、そこまでののかな」。手術前の説明の時、家内や息子ら6人も集まったので、「えらい大げさやな」と、意外に思いました。

手術当日は、全身麻酔で意識は全くなく、目覚めたときは終わっていました。

後で家内に聞くと、驚きましたね。

検査終了の翌日、病院から電話が掛かってきて「ガンが拡大して腸閉塞を起こしている。腸と胃の間が、鉛筆1本分しか開いていない。すぐに親類縁者を集めて立ち会って欲しい」とのこと。あまりに急だったので、子供たちにはメールで「父は危篤らしい」と、慌ただしく連絡をしたようです。

手術は朝9時から7時間かかったそうです。家内たちは待合室(デイルーム)にいましたが、子供や孫、配偶者ら遠近から10数人以上。新潟から飛行機で駆けつけた息子もいました。

術後の説明によると、大腸ガンの正確な病名はS状結腸ガン。ステージ4。肝臓にも転移。余命推定6ヶ月。化学治療(抗がん剤)をすれば、余命1年ないし2年。大腸の3分の1ほど切除――というものでした。切り取った大腸を見せてくれたそうですが、人数が多くて部屋には入りきれず、代表として家内ら6人が見ました。子供たち数人がスマホで撮影したのを、私も見ました。まるでホルモンの肉のよう。76年間もお世話になった臓器ですのに、2度と見る気がいたしません。家内も「みんながいたから見られたのかも。一人では見れたかな」と申しました。

手術の数日後、15年以上も家族と疎遠になって、会っていなかった長女が2日間に渡って見舞いに来てくれました。猛々しいほど活発な、キャリアウーマンの様相でしたので、私は少し安堵しました。「お見舞いありがとう。6億円もくれて感謝するよ。お母さんのタクシー代やな。でも、まだお迎えではないようや。本当に死ぬときには、是非きてくれよ」。「まだ死ねへんようやね。その時には来るわ」。

一般の病棟に移って間もないある夜、非常な痛みを感じました。全身麻酔が切れた夜だったのでしょうか。家内に洗濯物を入れるビニール袋を持ってくるように頼むメールをしたのです。ケータイは、ベッドのすぐ側の棚に置いてありました。手を伸ばして取ろうとしたのです。何と！体全体に激痛が。動かした手だけでありません。腹を中心に、全身に。やっと「ビニールふくろ」と入力しただけ。目がくらんで見えず、文字の位置も何度も押し間違い。痛さにダウンしました。

ふと煉獄の苦しみを思い出しました。

公教要理や聖人の教えによると「煉獄の苦しみは、地獄と同じ。ただ期間が有限。その苦しみに対して、靈魂は何の対策もとることができない」というものです。葬式に出会えば、出来るだけ冥福をお祈りしようと思いました。でも、近頃はこの決心、弱っていきそうな気配。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」の軽薄さから、神よ私を助けてください。

入院は18泊19日。その間、テレビばかり見ていましたが、病氣と死に臨んだ時の「カトリック的な心構え」というものも、あれこれ思いました。来月号には、書いてみたいと思います。

円ブリオ基金への募金協力に感謝！

皆様の協力で得られた募金（8回目、15,232円）を4月25日、NPO法人円ブリオ基金センター^注に送金させていただきました。有難うございました。これまでと合わせた募金総額は61,601円となりました。

今回は、お孫さんの誕生を祝って多額の献金をして下さった方がおられます。誌上をお借りして厚くお礼を申し上げます。有難うございました。

人工妊娠中絶、その背後には様々な事情があるでしょう。しかし、体内に宿る小さな命は、神様によって造られ、神様に会い、愛されるべき尊い命なのです。皆さまの小さな善意が、この小さな命の救いの一助となっています。塵も積もれば山となります。一口1円で結構です。これからもご協力のほどよろしくお願いいたします。

募金箱は、毎日曜日に、聖堂入口にある長机の上に置かれています。

円ブリオ基金趣旨賛同者
カトリック箕面教会世話人
カトリック池田教会世話人

注：NPO法人 円ブリオ基金センターは、赤ちゃんが健やかに生まれ、育つことが出来、親が子育てを通して幸せを感じられる社会作りを目的に国民の皆様から一口1円を募り、それを基金として出産費などの支援活動をしています。「エンブリオ」とは8週までの胎児という意味です。

宝塚黙想の家から

黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

6月15日（木）10:00～15:30

6月16日（金）10:00～15:30



指導：山内十束神父

黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797(84)3111

編集後記

池田の警察署から電話がかかってきて、逮捕された詐欺師グループが私の名前を持っていたと教えてくれた。わたしのパソコンにはトロイの木馬を削除したというメッセージが今日も入る。それでもセキュリティシステムをくぐり抜けた、いかにもまっとうそうなメールが添付書類付きで送られてくる。強盗や殺人のような直接危害を加える犯罪は減ってきているが、新手の大規模で巧妙な知的犯罪は増えてきた。広報部でも個人情報への扱いにはいつそう気をつけよう、と話し合い、対策を取り始めている。

ソフィー